

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701047		
法人名	(株)会社白水ディエイチシー		
事業所名	グループホームつばめ		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村吉田2043		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年々身体レベルが低下されていく中、その方の状況にあった食事時間・食事形態等、食べる事を重視した支援に力を入れている。
医療機関併設ではないが、認知症に理解を示してくださる医師が近隣に居られ、気軽に往診にいられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南阿蘇の大自然の中に建つホームは、管理者が中学校での認知症サポーター養成講座で講師を務めるなど、積極的に地域への認知症ケアの啓発に取り組んでいる。家族や包括など関係者と連携をとり一人暮らしの帰宅願望の方へ外泊支援により思いを叶えたり、重度化しても入居者の集う共用空間で穏やかな時間を過ごせる職員の見守り支援など心温まるケアが実践されている。今年度は運営推進会議に消防署へも出席を依頼し、ホームの現状や間取りを確認してもらい助言を受けるなど災害対策の強化に繋げる努力を行っている。新年度を迎えにあたり、管理者は開設時の思いに立ち返り此処でしかできないケアの実践を目指したいとしており、「笑顔のある生活」の理念のもと住み慣れた地域の中で展開される“つばめ”の今後に期待ば持たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく所に理念を掲げて、日々の支援の中で理念を振り返る様にしている。新人が入り、入社時・新人教育の中でも説明しているが今後も浸透させていく	創設時に全職員の思いを盛り込み作り上げた“ひとつ屋根に下 笑顔のある生活”の基本理念の他、介護理念五項目を玄関ホールとリビングに掲示している。職員採用時の新人プログラムの中や、毎月のミーティング時に説明を行い、日々の支援が理念に沿ったものであるか振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に隣近との交流は難しい。地域の中学校への認知症サポーター養成講座開催・体験学習の受入をし、地域との交流の一環としている	近隣に民家は少ないが、運営推進会議へも出席のある区長さんより、広報や区の情報により、ホームに出来る交流に努めている。地元保育園児との交流や小学生の来訪、中学生の体験学習受け入れも積極的に努めている。又、管理者は認知症サポーター要請講座で講師を務めるなど地域での認知症啓発にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム連絡協議会で今年度担当阿蘇地区にて、講演会への参加働きかけを早々より実施。湯の里荘からの認知症の対応方法等の相談及びアドバイス。2年ぶりに中学校からの依頼により認知症サポーター養成講座開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より消防署への会議参加依頼し参加してもらう。救急車要請や火災の原因等に関するアドバイスをもらう	定例化した会議には、ホームの現状報告や出席を依頼した消防署員からのアドバイスなどが出され外部評価についても結果報告が行われている。会議の中でグループホーム連絡協議会の講演会について案内したところ民生委員二名の参加が得られた。会議録は玄関への開示や家族への郵送を行い共有に繋げている。	全家族への会議案内が行われているが、出席に至っていない。家族の参加が望まれると共に、出席者からの意見の収集の取り組みに期待が持たれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き部屋状況を報告し、入居可能な状況を随時報告・相談	運営推進会議への出席をはじめ、書類提出時に役場を訪れ状況報告を行っている。今後もホームからの情報発信を行い協力関係の構築に努めたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言に基づき、マニュアルを使用しながら勉強会開催。随時、意識づけする様に説明している。普段の生活の中で気づいた事も随時話し合っている	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、勉強会や事例を通した話し合いで職員間の共有を図っている。管理者は何気ない言葉での拘束に対しては、その都度気づきを促している。外出傾向の強い入居者へは見守りや一緒に出かける事で安心してもらうなど施錠のない自由な生活を支援している。	今後も職員間の気づきや日々のケアを振り返る時間を持ち、入居者の穏やかな日常に繋がる支援が実践される事が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めると共に、虐待？と思われる事案に関して、即決集合をかけてミーティング開催。家族・市町村へ報告し家族も含めて検討し、今後の防止に繋がる対応をした。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにおいて今年度も学集会を開催した。在宅希望の利用者に関しては、役場包括支援センターも介入し金銭管理について説明したりした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者2名にて入居説明実施。説明時不明な点を確認しつつ、控えもふくめいったん持ち帰りしてもらい、ゆっくりと内容を確認してもらう時間をもっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ、自由に参加してもらえる様に、別紙で参加依頼をした。また開催日を早めに報告。	家族の来訪時に入居者の状況報告を行い、意見を引き出すように努めている。玄関に意見箱を設置しているが意見や要望は出されていない。重要事項説明書にホーム内外の相談苦情窓口を記載し公的機関については掲示を行っている。	家族会の時期などについてアンケートを実施しており、中断している家族会再会への取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りにて意見交換の場を設け、運営に生かす様に努力している。随時、管理者が介入しない話し合いの場をもうけスタッフが意見を出しやすい環境作りをしている	毎月のミーティング時に意見要望を収集し、職員のみでの話し合いの機会も作っている。嚙下困難な入居者への対応としてブレンダーを購入したことで食感を損なわない食事支援に繋がったり、職員の意見で勉強会の担当者を決め、研修予定や資料作りを行いケアの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会等の案内等、掲示している。入居者が少なく、給料や勤務状況での不安要素あり。現在なかなか難しい面多し。方向性については、早めの決断要し、スタッフへの報告を早めにしていく。介護安定金の利用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画やミーティングにおける勉強会開催等実施。個人目標や面談も実施。新人に関しても、新人教育実施。その日のリーダーが申し送り後、支援ポイントを伝達し、リーダーシップを発揮できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	終末期に関し、経験している他の施設の状況や経緯等を聞き、当施設でも行かせる様に、皆に伝授した。阿蘇地区主催の講演会に全員参加し交流をはかれるようにした。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人を含めて見学に来てもらったり、事前につばめより訪問して顔みしりになり、御本人の様子や状態把握につとめ、関係づくりを努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	つばめでの対応状況や生活の様子をみてもらいつつ、御家族の希望等の把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームがどのような施設であるか、また当ホームがどのような理念をもって支援しているか、説明し御家族が希望されるサービスがない場合は、他の施設等を紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と同じ時間を共有する事で、身近な存在として話を十分聞く様にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1回/月の手紙にて状況報告は随時している。面会時は本人の状況に応じ、御家族に食事介助していただいたりしている。利用者によって、落ち着かれる言葉かけがある事を文書により説明した。家族と良好な関係が築けるように職員から、積極的に会話を持つことを目標に取り組んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた家族以外の方には、面会簿に住所を書いてもらったりして、次につながるころみはしている。近隣の方との電話や外出支援。	家族の了解を得、知人へ電話し一緒にの外出を楽しむ入居者や行きつけの美容室に出かけるなど、これまでの馴染みの関係継続を支援している。法事や墓参など家族の協力や職員も送迎を支援している。今後も家族(知人・親類を含め)と協力しながら馴染みの関係継続に努めたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10月11月と新入居者があった事で、テーブルやイスの位置など、会話の状況による配置の工夫は実施。利用者の方々同士の会話がはずむようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅に帰られたあとも、状況を聞きつつ、また居宅からの連絡があれば、相談にのっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一言一言の思いを探りながら、どういう風な声かけがベストか？どう対応していくかなど、申し送りにて状況をきちんと申し送り、それぞれの利用者の立場にたって支援してる	担当制を設け、日々の会話や表情から思いや希望を察し、意思表示が困難な方に対しては家族や関係者からの情報を基に本人視点で話し合う事で、入居者の意向の把握に努めている。職員は「ここでしかできない、その人らしい支援」を目指し一人ひとりの“今”を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居された方のこれまでの生活ぶりが、子供達が遠方の為、把握しづらいが、居宅とも関係しながら、状況を把握。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う行動・言動・表情をしっかりと見極め把握するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月のミーティングにて入居者一人ひとりについて状況を確認し、各担当からの意見もきき支援につなげている。	本人・家族の意向をもとに担当者の意見を取り入れ作成したプランを、モニタリング、カンファレンスで確実なプランとし、職員間で共有している。認定更新時や入退院時、状況変化時など定期や随時の見直しや変更を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙、2種類わけた。特記事項が欄外に記録スペースある事で記入しやすくまた見やすくした。ポイントとして情報を共有しやすくなった		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅希望者の方に対し、包括支援センター・社会福祉協議会等4者面談等実施。本人の意向をふまえ、よりベストな方向への支援を考察・実施した。外泊形式ながら、随時様子を見に行った		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生による福祉体験実習の受入・幼稚園や小学校の慰問等積極的に受け入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則受診を御家族に依頼。家族のご希望、本人の状況により、ホームでの対応もしている。今後の状況や終末期等に関しては、ご家族の同意のもと3者面談等実施。	これまでのかかりつけ医を支援しているが、入居後、受診や緊急面から協力医に変更される方もある。基本的には家族による受診を依頼しているが、希望や状況に応じホームでも臨機応変に対応している。受診結果については、電話や毎月の報告書と一緒に郵送している。又、希望や必要に応じた訪問歯科診療も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職にて、早めはやめの対応を実施。適切な支援に結びつけている努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況を見に行きながら、ご家族とも情報交換。医療的処置が終了後、ご家族の希望も取り入れ、本人がベストな方向での早期退院への支援を医療関係者との信頼関係の下、実施した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療に関する事項の中で入居時にご家族の意向等を把握していたが、生活状態から見て、終末期に近い状況がみられたため、再度面談を実施し、ご家族の意向の再確認とともに、ホームでの支援のあり方を説明。支援の方向性をチームに伝えている。勉強会において、他ホームでのスタッフのアンケート結果を報告した。	入居時に重度化や終末期の対応について、家族の協力と医師の判断によりホームとしてできる限りの支援に努めることを伝えている。重度化や終末期に関する指針や確認書、看取り同意書を作成し、今年度は職員のメンタルも含めた研修を実施している。又、家族にも食事や排泄等の現状を見てもらうことで、ホームと思いを共有し、その方の思いに応える支援に繋げていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等が続いて2件あったが、毎回振り返りや対応について、皆で共有。次に生かす様に検討した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	敷地内に村の防火水槽設置あり。2回/年の消防立会いのもと火災訓練。新人がいる事で、新人を対象とした訓練へ変更。スプリンクラー設置。各勤務終了時に灰皿等の清掃を行っている。	年二回の総合訓練を計画し、年度末に二回目を予定している。今年度は消防署長に運営推進会議への参加を依頼したり、新人職員を対象にした訓練を計画し避難方法や災害対策への意識強化に努めた。管理者は地元の女性消防団に入団し、地域との連携やホームの災害対策に活かしたいと意欲的である。	年二回の設備点検や、風水害に対してのシュミレーション、研修など計画的に実施しており、今後は近隣・地域住民も参加しての訓練や、日々の業務日誌に最終火元確認項目を設ける事で職員の意識付けに繋がる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者にあつた言葉かけをしている。また随時声かけ等は、お互いに注意あつている。また、外部評価のアドバイスを元に職員間においても気持ちの良い言葉のやりとりの中で、利用者が落ち着いて生活できるように心がけた。	呼称は基本的に名前とし、コミュニケーションや入居者に馴染みのある方言を使用することについては家族へも説明し理解を得ている。守秘義務について職員や実習生にも説明を行っている。管理者は新人職員に対して尊厳やプライバシーに配慮した支援について、トイレ介助方法など事例を通し指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの表情や行動から本人がどうしたいかを見極める支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	起床・就寝・食事においてもその方のペースに合わせて行つている。自宅での生活を強く希望された方に対して、ご家族・包括等との関係を持ちながら、外泊・外出という形をとつた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容室の利用。起床時、就寝時の更衣への支援。ネットの利用支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	夏場には、菜園で収穫された食材を調理、季節にあつた食材を選択し、食事専門スタッフにより、工夫された食事を提供している。テーブル拭きやお盆への下膳などできることをしていただいている。食器洗いを仕事と楽しみにされている方もいる。	菜園で収穫した野菜や差し入れ食材を活かし、入居者の希望を取り入れた献立は、調理担当者のアイデアにとんだ味や盛り付けとなり好評である。入居者も買い出しに同行したり、テーブル拭きなどできる事を一緒に行つている。入居者の誕生日当日に行われるお祝い会や、出前弁当・外食など楽しい支援である。職員も見守りや介助を行いながら一緒に食事を摂っている。	毎日のおやつメニューも工夫された手作りが多く提供されており、この取り組みを家族にも伝える事で、安心や情報収集の機会に繋がると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック・食事量のチェック。摂取状況に応じ、栄養剤等の処方依頼。ミキサー食の導入。刻み食や食事量においても食べやすい工夫。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時は、訪問歯科による受診・指導を受けている。毎食後の口腔ケア支援。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄チェック表使用。要介護5の方やほ寝たきりに近い方でもトイレでの排泄支援を行っている。随時、排泄に関する検討を重ねている。	排泄チェック表は必用な方のみ記入し、仕草やタイミングを見逃さないように声かけや誘導を行い、介護度の高い方でもトイレでの排泄を支援している。使用する排泄用品も個々に応じたメーカー品の使用や、昼・夜の状況に応じた品など職員間で話し合いを重ね、家族へも説明を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取にて、牛乳・ポカリスエット・のむヨーグルト等をすすめ、自然排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状況で、拒否がある方にも表情やタイミングを見て、入浴をすすめている。菖蒲湯・柚子湯など実施。	毎日入浴の準備を行い、現在午前中を希望される方はおらず、基本的に週三～四回午後からの入浴を支援しているが希望があれば毎日の入浴へも対応している。気持ちよいシャワー浴の方法を検討したり、拒否の方への対応など楽しめる入浴支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自自分のペースで就寝・休息をとられている。声かけにて更衣や布団の準備等自分のペースでできている。安眠の為にマットレスの導入。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ケース個人個人の薬管理。ファイルに何を服用しているか表示。処方箋ノート・お薬手帳の活用。医療ノート活用。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年々利用者の高齢化がすすむが、まだやれる、まだできるの理念のもとこれまで実施していた菜園・プランター苗植え等一緒に出来る機会は継続。高齢の方も出来る限り、その気配は空気を楽しんでもらっている。行事の中でのできることを支援。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される時は、いつでも外出支援を行っている。(理容、銀行、買い物等)	天候のよい日は近隣や敷地内の散歩をはじめ、季節の花見・遠出のドライブにも車いす利用者も一緒に出かけ楽しみを共有している。又、近隣施設で開催されるイベントに参加し交流に繋げている。家族によるドライブ(外食や帰宅など)や、銀行・日用品の買い物など個別の外出も支援している。	今後は家族や地域の人々の協力を得ての外出支援を課題としており、入居者の楽しみとなるホームの取り組みが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が希望している一部の方は、お金を預かっている。自由に使う事できる。1名の方は自分で管理されている。つばめの支払いに関しては、領収書以外、御本人が活用しているノートに記載。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された場合、随時電話をしてもらっている。時々家族への手紙をすすめ、1回/月の報告時送付		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングと季節の花や装飾を心がけている。利用者の状況を見ながら、室温を調整し、空気清浄機活用。スタッフ同士の会話や声が不快感とならないように随時配慮している。	入居者の集うリビング・ダイニングは季節の飾物やソファでテレビを見たり、新聞を読んだりと思いおもいに寛げる空間である。又、空気清浄機の設置や空調器の確認を入居者の状態に応じて行っている。管理者は職員間の会話や声のトーンについても配慮することを業務の中で伝えている。	新年度を迎えるにあたり共用空間の掲示物や備品の見直しを行うことで、より季節感や居心地良い空間に繋がることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に食堂・リビングソファを分けて、それぞれ思い思いの場所で過ごせる様になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望にてベッドの位置を決めている。希望者は居室にテレビ持参。奥様の遺影を居室に飾られている。	入居時に資料をもとに、自宅での生活の延長と考え馴染みの品の持ち込みを依頼している。遺影やテレビ、収納家具をはじめ使い慣れたルーペ、読み慣れた新聞を入居後も継続してとられ居室で愛読される方もおられる。職員は換気や日々の掃除を小まめに行い、ベッドの位置も本人の希望やADLに応じ検討するなど居心地や安全面への配慮に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方の生活導線やその方ができる能力を見極めて、居室のタンス等の配置の工夫。入居前は、自分で薬や金銭管理できていた方に関しては、継続して自分でできる様に支援。		